令和２年度　学　校　評　価　【 計　画　書 → 報　告　書 】

加賀市立三谷小学校　校長　平井　雅子　　印

学校教育ビジョン

１　学校教育目標
　夢や目標に向かって，主体的に学ぶ三谷っ子の育成

２　「子どもも保護者も地域の方も，みんなが大好きな三谷小学校」をめざして

（１）めざす児童像
　①自分の夢や目標をもって，前向きにがんばる子
　②友だちを大切にし，人の気持ちを思いやる子
　③心身ともに元気な子
　④家庭や郷土を大切にする子

（２）めざす学校像
　①学ぶ意欲にあふれ，一人一人の成長が感じられる学校
　②子どもが安心して笑顔で生活できる学校
　③保護者や地域とともにあり，愛される学校

（３）めざす教師像
　①子どもの目標達成や夢の実現を支えるために，協働して学び続ける教師
　②児童一人一人の安心と安全を第一に考える教師
　③保護者や地域と協力して，子どもたちを育てる教師

３　今年度の重点目標
（１）豊かな心と健康な体を育成する教育の推進
（２）主体的な学習態度の育成と学力向上
（３）すべての子どもが安心して学べる学校づくり
（４）家庭や地域との連携と郷土を愛する心の育成
（５）協働し，笑顔で教育活動を推進する教師集団づくり

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	各教科の授業のふり返りに重点を置き、自己の変容や新たな課題の発見につなぐことができるように授業改善を図る。	各授業において、めあてを明確にした授業を展開し適切にまとめたうえで、自己の変容・学びの実感を確認するふり返りをする。	教務主任	授業時間のタイムマネジメントが図られ、ふり返りをする時間は確保されつつあるが、ふり返りの内容を充実させる必要がある。	【成果指標】 各教科の授業において自己の変容や学びの実感、学びのつながりを意識したふり返りをすることができる	授業のふり返りをしっかりできた児童の割合が、 A　90%　　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	お互いがよい気持ちになるようなあいさつを、一人一人が自分から進んですることで、よりよい人間関係を育成する。	今できているあいさつを見直し、レベルアップできることを考え、学級や集会などで呼びかけていくことで児童の意識を高め、実践につなげる。	生徒指導主事	あいさつ運動や、朝と帰りのあいさつでは元気に声を出している姿が見られる。普段の学校生活や登下校でも、一人一人が自分からあいさつができるようになってほしい。	【成果指標】 自分から進んであいさつをすることができる	自分から進んであいさつをすることができた児童の割合が、 A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。			
	生徒指導の3機能を生かした授業作りに取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	学校生活アンケートやQ-Uアンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図り、児童のよいところを認めながら、「自己決定」を意識した授業づくりの実践を進め、児童の主体性を高める。	生徒指導主事	友達と仲良く関わることができる児童が多く、少人数のよさを生かし、全校で遊んだり、たてわり活動で異学年交流したりと、活発に学校生活を送っている。しかし、自分の思いを持ち、主体的に行動しようとする力が弱い面もみられる。	【努力指標】 児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行う。	児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。			
③キャリア教育・進路指導	適切な目標を持ち、その達成に向けて、前向きに課題に取り組み、やり遂げた満足感を味わわせ、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個々人の実態に応じた適切な目標を持たせ、目標が達成できるようにする。	キャリア担当	明るく素直で仲のよい児童が多いが、適切な目標を立てて、継続して努力していく力が弱い傾向がみられる。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、自己評価できるようにさせる。	【努力目標】 各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、自己評価する機会を持たせることができた教職員の割合が A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。			
④保健管理	児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	器械運動領域だけでなく毎時間の導入でコーディネーション運動を取り入れた体育科の授業を実践する。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、持久性においてやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 体力テストにおいて、32項目中25項目以上で昨年の県平均記録を突破する。特に、持久性の項目の突破を目指す。	体力テストにおいて、各体力要素32項目中、昨年の県平均記録を突破した項目が、 A　25項目以上　B　20項目以上 C　16項目以上　D　16項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。			
	感染症予防に努め、規則正しい生活を送ることができる児童を育成する。	生活チェックや学級指導、個別指導等を通して、早寝早起き等の生活習慣改善を図る。	養護教諭	臨時休校中の生活習慣の乱れ(特に睡眠)が原因で、体調不良を訴える児童や集中力の低下がみられる児童が多い。抵抗力の面からも生活習慣の改善が必要。	【成果指標】 早寝・早起きを心掛けることができる。	早寝・早起きができたと答えた児童の割合が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。			
⑤安全管理	防災への意識を高め、具体的な行動につなげることができるようにする。	訓練の際には、教科の内容と関連付けて事前指導を行い、日頃からの備えなどについて家庭と連携して点検し、防災への意識が継続するようにする。	教頭	訓練の際の防災への意識の高まりが継続するような手立てが必要。	【努力指標】 訓練の際の児童への事前指導を充実させ、家庭との連携をはかることができる。	訓練の際の児童への事前指導を充実させ、家庭との連携をはかることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり見直したりし、共有を図る。	特別支援教育コーディネーター	全職員で児童の特性を共通理解し、指導に当たっている。気になる児童に対して、その子に応じた具体的な支援策を考え、継続的に行う必要がある。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり見直したりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討したり見直したりできた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑦組織運営・業務改善	退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図り、ゆとりある教育活動を推進する。	退勤時刻19時を目指すために、月ごとの業務改善振り返りシートに取り組み、各職員が具体的な改善点を意識して実行する。	教頭	日課の変更や学校行事の精選等の取組の結果、放課後の業務ための時間を増やすことができたが、教材研究等に多くの時間が取られている。	【努力指標】 退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図る。	退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図ることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員の業務内容振り返りシートを集約する。			
⑧研修	国語科を中心として、主体的に学び、自分の思いや考えを進んで伝え合うことのできる力を育成する。	国語科の「話すこと・聞くこと」領域において、学習指導要領に示されている指導事項の確実な習得を図る。	研究主任	真面目に学習に臨む児童が多いが、自ら進んで思いや考えを伝えたり、友達と協働してよりよいものや意見を創り上げていく主体性がやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に準じた「話す・聞く・話し合う力」アンケートを実施し、定着率をみる。	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて上位回答の児童・教職員の割合が、 A　80%以上　　B70%以上 C　60%以上　　D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。			
⑨保護者，地域との連携	地域の良さを生かした実践や地域行事の児童の参加を通じて、児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	地域人材や地域教材を活用した授業実践を推進するとともに、地域の行事への積極的な参加を呼びかける。	教頭	地域・保護者の方はとても学校に協力的で、育友会や地域の行事へ多くの児童が参加し、また地域や地域の人材を活用した授業実践が行われている。	【努力指標】 地域を活用した授業実践を進め、地域行事への児童の参加を呼びかける。	地域を活用した授業実践を進め、地域行事への児童の参加を呼びかけることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	危険に対する高い危機意識を持って月に1回の安全点検を継続して行う。	教頭	定期的に点検し迅速に対応することができた。マンネリ化を防ぐため、新たな視点で点検項目を見直し落ち度の無いようにする必要がある。	【努力指標】 危険に対する危機意識を持って日々の点検に努める。	危険に対する危機意識を持って日々の点検に努めることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
学校関係者評価										